

患者や医師に退避強要 イスラエル軍未熟児や重症者残る



ガザ地区北部で16日、ガザ地区最大のシファ病院が機能しなくなつた後、北部のインドネシア病院の床に寝かされる負傷者=ロイター

パレスチナ自治区ガザ地区で18日、イスラエル軍が占拠するガザ地区最大のシファ病院から、医師や多数の患者、避難者が退避した。 AFP通信などによると、イスラエル軍が同日、1時間以内の退避を命令し、南部へ向かっている。同軍は、安全な経路で避難さ

せるためとしているが、患者らが移動を強いられている。

▼6面=進まぬ人質解放シファ病院には医師や患者、避難者ら数千人がいるとされる。カタールの衛星テレビ局アルジャジーラの中継映像で、退避した男性医師は、午前9時ごろ1時間以内での

退避を通告されたとし、「我々は避難を強制された」と説明した。

患者家族らは、患者を車いすや担架に乗せて搬出。一方、未熟児や重症患者らと、病院長を含む医師5人、数人の看護師らが残っているという。イスラエル軍は「病院長の要請で、避難活動の拡大と支援に同意した」とする声明を発表。「退避は命令ではない」としている。同軍は、病院地下にイスラム組織ハマスの拠点があると主張する。

病院は燃料不足で、医療機器が使えなくなつていて。アルジャジーラによると、病院長は17日に「集中治療室の患者全員を失つた」と明らかにしていた。

イスラエル軍は北部に加え、南部にも攻撃範囲を広げている。 AFP通信は18日、南部ハンユニスの住宅が空爆され、26人が死亡したと報じた。

(エルサレム=今泉泰)